

平成26年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

東 粉 浜 小 学 校

児童数

58

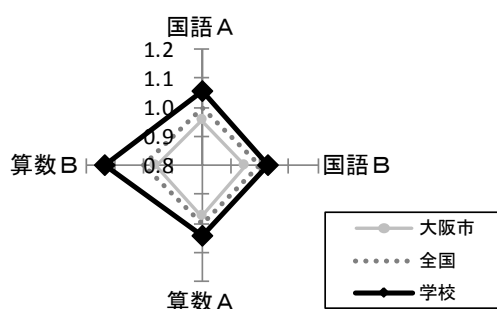
平均正答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	76.9	57.1	81.5	66.2
大阪市	69.7	52.7	76.0	55.8
全国	72.9	55.5	78.1	58.2

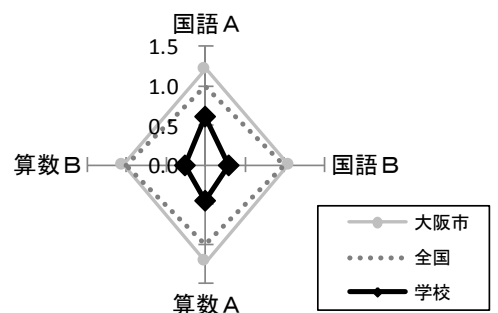
平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	1.4	2.6	0.4	1.1
大阪市	2.8	9.7	1.1	4.5
全国	2.3	9.2	0.9	4.3

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



結果の概要

国語ではA問題・B問題共に大阪市・全国平均を上回り、Aは全国平均より5.2%、Bは6.5%高く、基礎基本の定着と活用力が身に付いていることがわかる。

算数でもA問題・B問題共に大阪市・全国平均を上回り、Aは全国平均より7.2%、Bは9.5%高く、国語と同様に基礎基本の定着と活用力が身に付いていることがわかる。4領域とも大阪市・全国平均を上回っており、また、無答率も4領域で大阪市・全国平均を上回っている。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

国語では、平成23年度～24年度校内研究として、「読むこと」に重点をおいた指導を進め、25年度も「言語力」の育成に取り組んだ結果、「読むこと」の領域がA問題・B問題ともに4～10%と大きく平均を上回った。今後、国語科における習熟度別授業に力を入れ、「書く」領域を更に向上させる手立てを工夫するとともに、漢字の書き取りなど基本問題を徹底するよう全学年で取り組みたい。算数の高得点は当該学年が3年生の時から習熟度別学習を導入し、個々の児童に合った指導法を導入したことや、ノート指導を丁寧に積み重ねてきたこと等の成果と思われる。また、一人一人に丁寧な指導をしてきたことがA問題・B問題共に無解答率が大阪市・全国平均を上回る結果につながった。また、過去に出た問題や課題のある領域の問題に慣れるよう指導してきたので得点上位者の増加につながったと思われる。今後もこのような取り組みを継続していきたい。

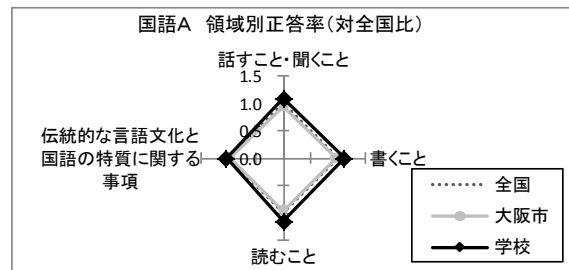
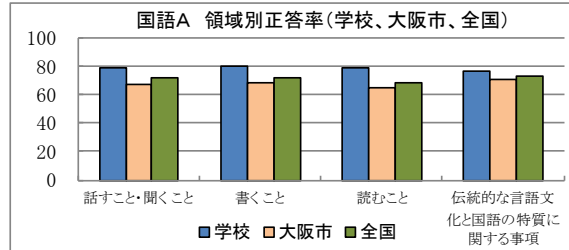
【国語】

結果の概要

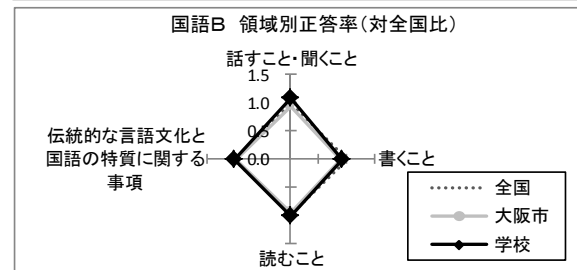
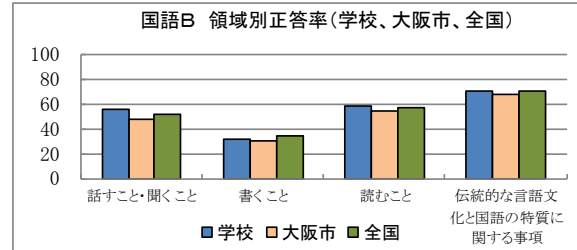
A問題の平均正答率は、76.9%であり、全国及び大阪市の平均正答率と本校の正答率を比較すると、4%～10%程度上回ったことと、昨年度課題があった(書くことについて)7%～11%上回ったことは、成果といえる。

B問題の平均正答率は、大阪市52.7%、全国55.5%に対して、本校57.1%である。しかし(書くことについて)は、まだ課題が残っていることがわかった。

A 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	1	78.6	67.9	72.4
	書くこと	3	79.8	68.5	72.2
	読むこと	2	78.6	65.1	68.5
	伝統的な言語文化 と国語の特質に関 する事項	12	76.5	70.6	73.7

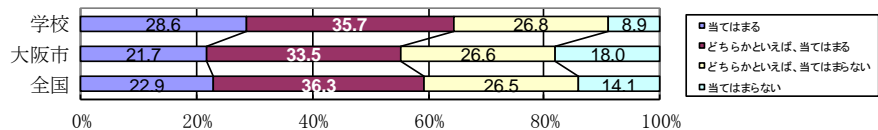


B 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	3	55.4	48.3	51.2
	書くこと	3	31.5	30.9	34.4
	読むこと	7	57.9	54.6	57.3
	伝統的な言語文化 と国語の特質に関 する事項	2	70.5	67.9	69.8

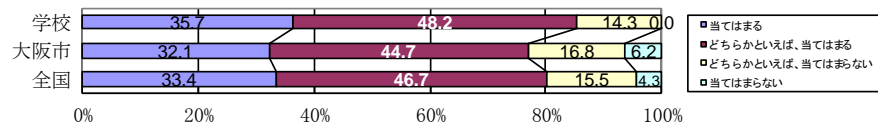


国語に関する「児童質問紙」

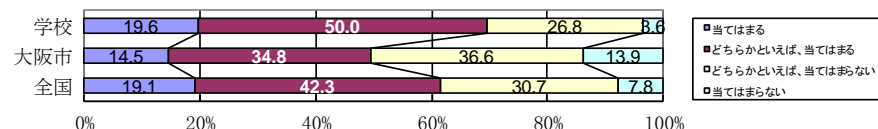
50
国語の勉強は好きですか



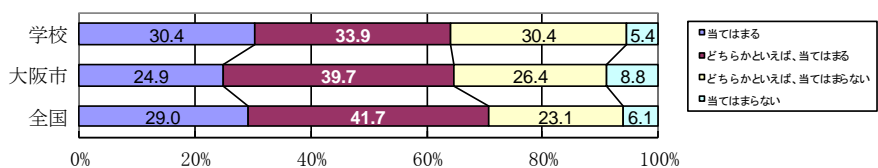
52
国語の授業の内容はよく分かりますか



55
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



57
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか



成果と課題

- ・漢字を書くについては3問中3問共よくできていた。
- ・漢字の[読み](街頭・勢いよく・走り出す)や、国語辞典を使って、言葉の意味と使い方については課題がある。
- ・内容を理解し、考えたことを書く活動を積み重ねた結果、書くことについて成果が表れてきているが、B問題で「分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付けながらまとめて書く。」問題で全国平均正答率を5%下回ったことは、引き続き課題といえる。

今後の取組

- ・特に漢字の読みについて、声に出して読ませるなど、指導を工夫していく必要がある。
- ・国語辞典については、使用しやすい環境を整えるとともに、使用頻度を増やすための指導が大切になってくるし、導入学年での辞書の引き方の指導が重要になってくると考えられる。
- ・普段の学習指導の中で、自分の考えをまとめたり、わかったことを整理したりする、書く活動を本年度取り組んでいるが、引き続き取り組みを強化し、言語活動の充実を図っていきたい。

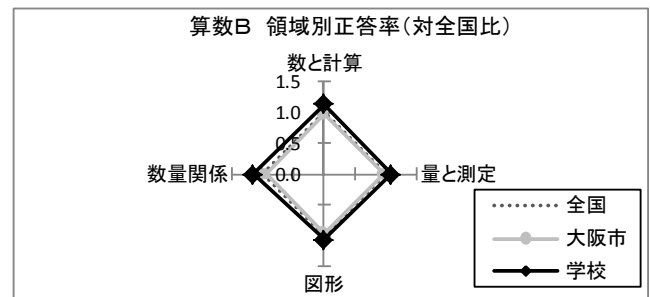
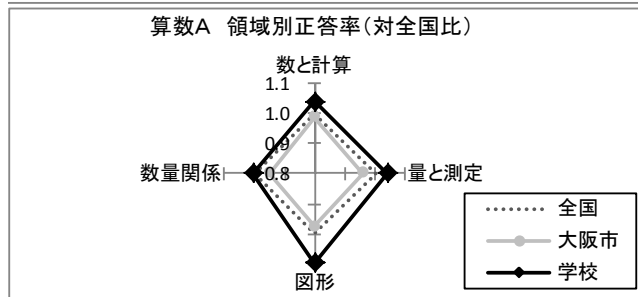
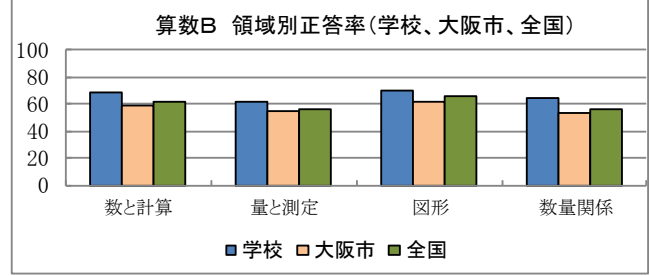
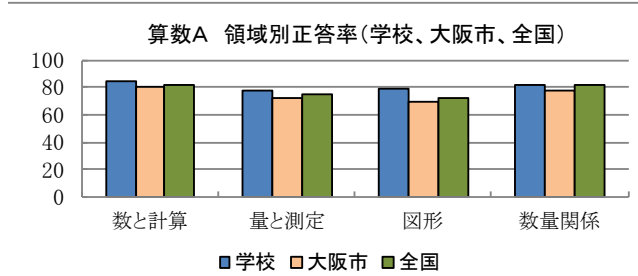
【算数】

結果の概要

A問題の平均正答率は、81.5%であり、全国及び大阪市の平均正答率を比較すると、すべての領域で上回っている。B問題の平均正答率は、66.2%であり、全国及び大阪市の平均正答率を比較すると、やはりすべての領域で4～10%程度上回っている。点数分布は、全国や大阪市に比べて高得点の人数が多いことがわかった。

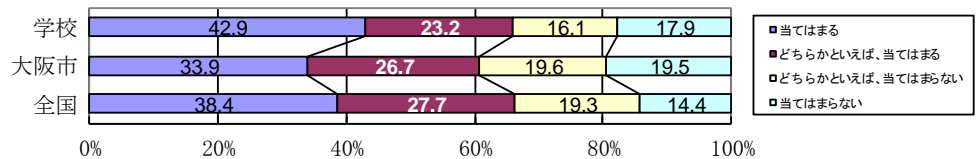
A 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	数と計算	8	85.0	80.8	81.8
	量と測定	3	78.0	71.8	74.8
	図形	4	78.6	70.0	71.8
	数量関係	3	81.5	77.2	81.3

B 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	数と計算	8	69.1	58.9	61.3
	量と測定	5	61.6	54.4	56.5
	図形	1	69.6	62.5	65.7
	数量関係	5	65.0	52.9	56.2

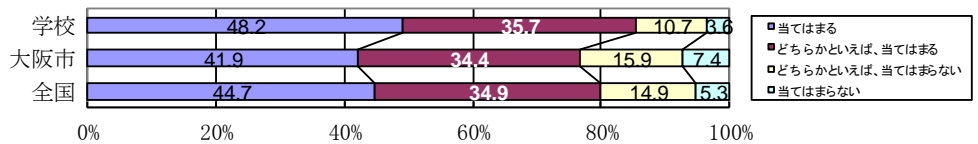


算数に関する「児童質問紙」

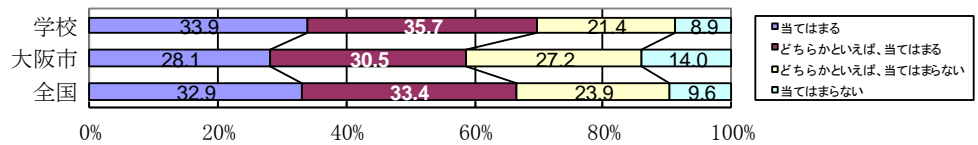
62
算数の勉強は好きですか



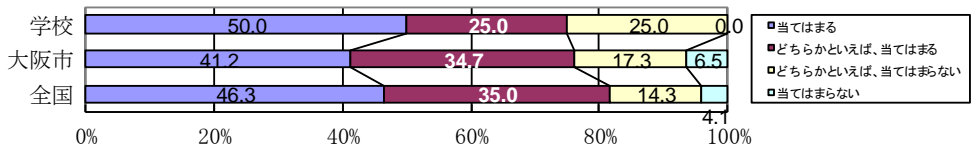
64
算数の授業の内容はよく分かりますか



67
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



70
算数の授業で公式や決まりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか



成果と課題

- ・基礎基本の定着が図られ、計算問題はA・Bともに大変よくできていた。
- ・日常的に実物を使って考えたり、作図をしたりする指導をしてきたので、立体図形とその見取り図の辺や面のつながりや位置関係について理解することができていた。
- ・示された情報を整理し、筋道を立てて考える問題では、全国及び大阪市の平均正答率を比較すると10～13%上回っていた。

今後の取組

・「算数の授業で公式や決まりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」では、「あてはまる、どちらかといえばあてはまる」が75%を占めているが、「どちらかといえばあてはまらない」25%の児童を習熟度別授業などで高めたい。引き続き、言語活動を通して筋道を立てて考える力を育てると共に、具体的操作などの算数的活動の充実を通して、数の仕組みや数量の関係などについて興味を持たせていきたい。

学びの充実に向けて

結果の概要

「読書は好きですか」には、89%の児童が、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答えていて、全国・大阪府平均に比べて、17～22%と非常に高いことがわかった。

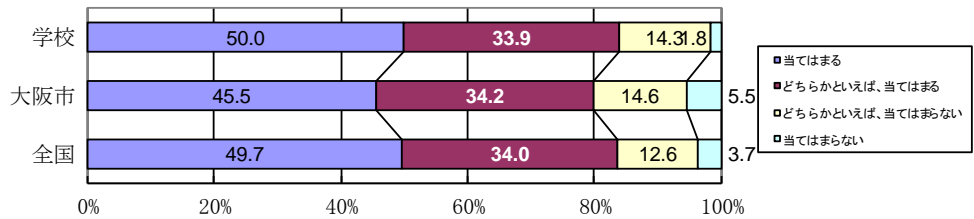
読書時間を増やす工夫をしたり、読書環境を整えたりした結果であり、成果である。

また、「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」には、70%の児童が、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答えていて、全国・大阪府平均に比べて、5%～10%高いことがわかった。全校あげて、自分の考えを持ち、友達の意見をよく聞き、高め合う言語活動を意識した指導を継続した成果だと思われる。

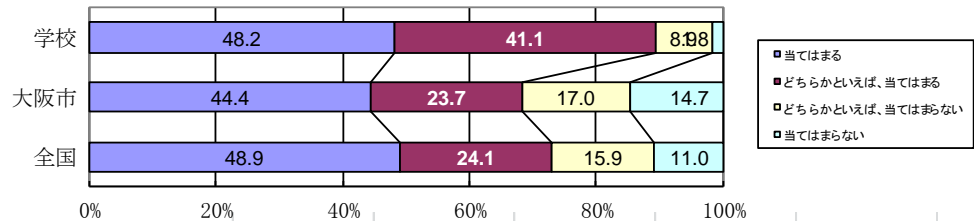
dokushohasukidesut

質問番号	質問事項
------	------

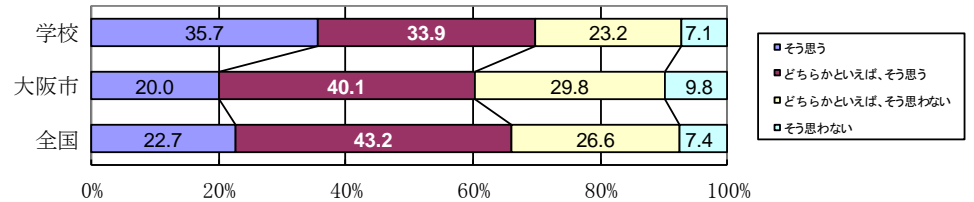
42
5年生までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか



53
読書は好きですか



48
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



成果と課題

読書タイムを設定して読書時間の確保をしたり、移動図書、図書館開放、読み聞かせなど様々な取り組みの成果が、読書習慣の定着につながってきている。それに伴って、1日当たりの読書量や学校図書室や地域の図書館の利用率も昨年に比べて増えてきている。

今後の取組

- ・さらに、読書習慣が身につくよう学校図書の充実を図ると共に、家庭への啓発に努める。
- ・年間計画に従って更なる言語力の向上を努めていく。

基本的生活習慣

結果の概要

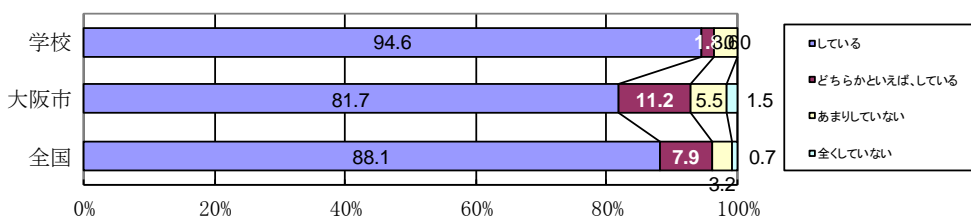
「朝食を毎日食べていますか。」では、大阪市・全国と比べてもいい傾向にあり、ほとんどの児童が食べていると答えている。

「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。」では、「している」「どちらかといえばしている。」と答えた児童は、全国とほぼ同じ割合である。

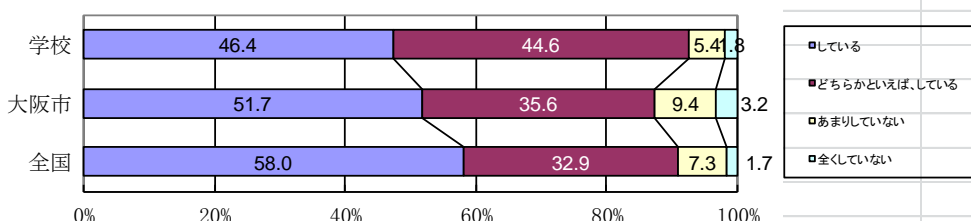
・「1日当たりどのくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしていますか」について、持っていないと答えた児童が46%で所持率は全国平均並みで大阪府平均と比べると8%低くなっている。昨年と比べて本校児童の所持率はやや低い傾向といえる。

質問 番号	質問事項
----------	------

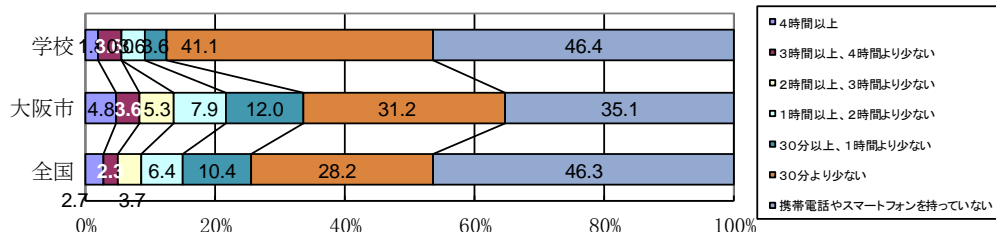
1
朝食を毎日食べていますか



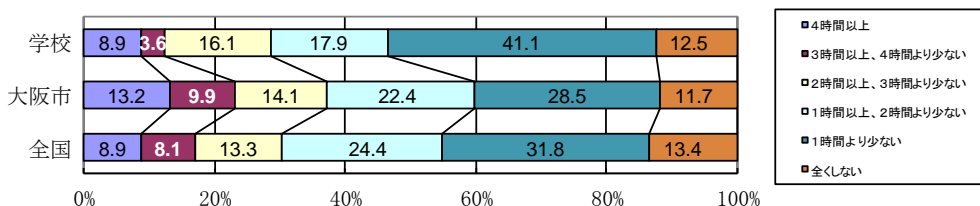
3
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



13
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(ゲームは除く)



12
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム等含む)をしますか



成果と課題

・[毎日同じくらいの時刻に起きていますか。]については、「している、どちらかといえばしている」と91%の児童が答えており、全国、大阪府平均と比べて高い結果になっている。朝食の摂取率も高い結果である。家庭において規則正しい生活習慣を身に付けることの協力が大きいといえる。しかし、少数ではあるが、規則正しい生活習慣が十分に身に付いていない児童には、学校での指導を進めながら、家庭への啓発の必要がある。

今後の取組

・携帯電話の所持率・利用率が高くはないが、引き続き情報モラルの指導や家庭への啓発をしていく。
・テレビゲームの利用時間は、全国平均より低く「全くしない・1時間より少ない」が、合わせて53.6%と抑制がきいている。少数ではあるが、3～4時間も利用する児童への注意や家庭への啓発に努めたい。

家庭学習

結果の概要

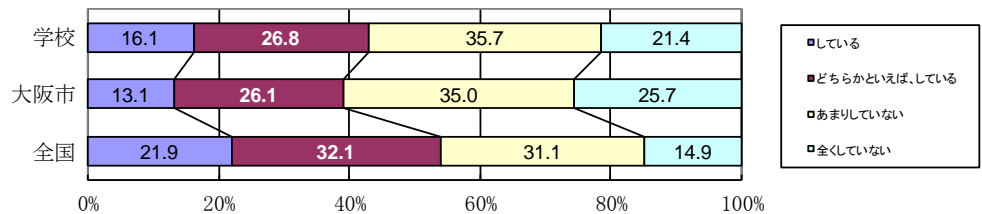
・「家で、学校の授業の復習をしていますか。」の質問では、大阪市平均よりは多いが、全国平均と比べると少なく「全くしていない」が、7%程高く家庭学習の啓発が課題である。

・「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。」の質問では、「している・どちらかといえばしている」の回答では、大阪市との比較では、7%上回るが、全国と比べると5%下回る。「全くしていない」の回答では、ほぼ差はないが、全国平均と比べると10%下回る。

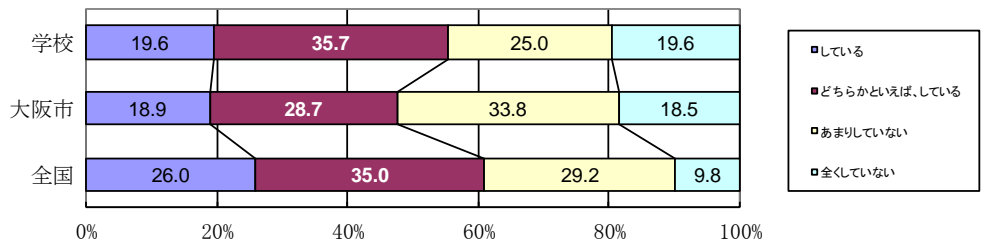
・「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)」の質問では、「30分以上勉強している。」の回答では、市内平均より10%上回り、全国との比較では、ほぼ同じ結果が出ている。

質問番号	質問事項
------	------

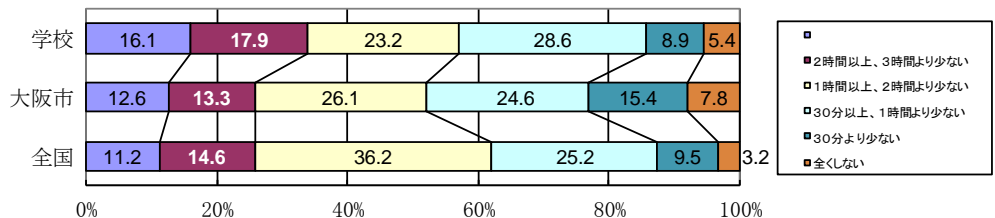
24
家で、学校の授業の復習をしていますか



21
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



14
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



成果と課題

・1日当たりの学習については、大阪市・全国と比べると、上回っている。ただ、「授業の復習をする」や「計画的に勉強をする」の項目で、「全くしない」の回答がそれぞれ21.4%、19.6%と約2割いることは、家庭との連携の中で少なくしていかなければならない課題であるといえる。

今後の取組

・今回の結果を踏まえて、家庭学習の大切さや必要性を継続的に伝えていく。

・各質問事項で「全くしていない」の回答率を下げるために、個別に家庭との連携を密にして、家庭学習の充実への啓発を続けていく。

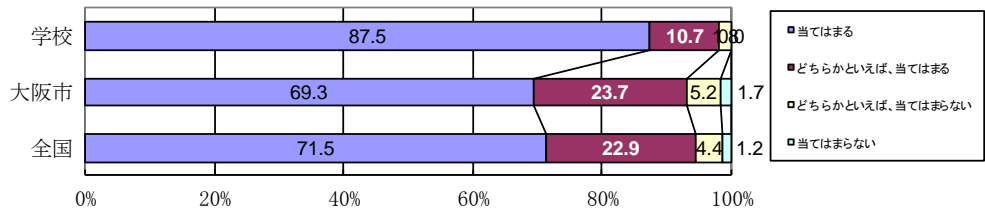
自尊感情・規範意識

結果の概要

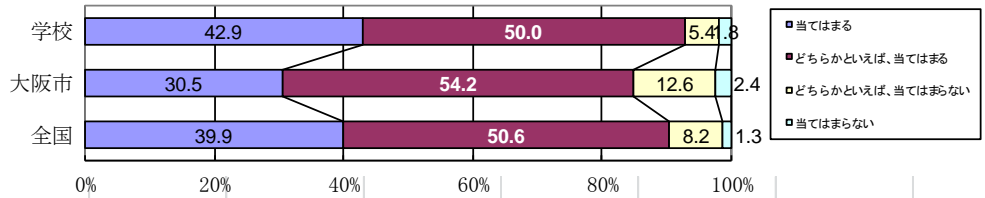
・「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」の回答では、「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」を合めると、98.2%が充実感や達成感を持った経験があると答えている。
 ・「学校のきまりを守っていますか」では、「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」の回答が約93%と規範意識が高いことがわかる。
 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」でも、約92%の児童が「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる。」と回答している。
 ・「自分には、よいところがあると思いますか。」では、「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる。」の回答でも、大阪市、全国平均を4~9%上回っている。

質問番号	質問事項
------	------

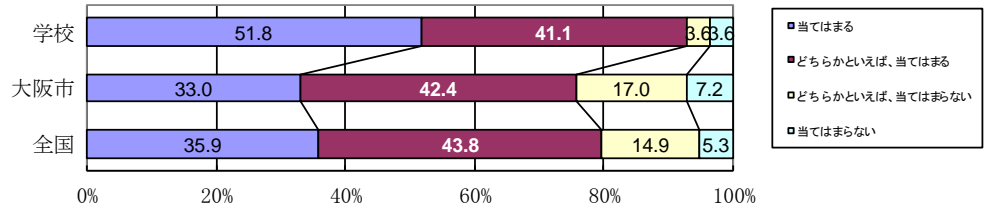
4
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



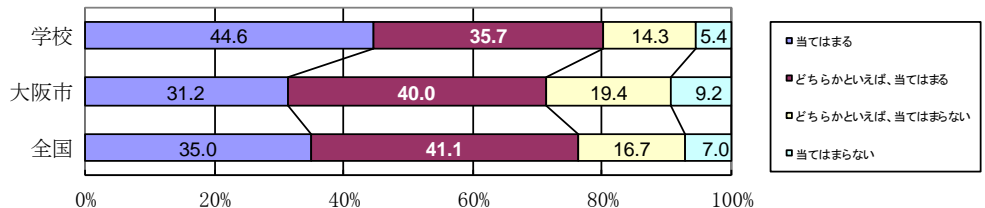
34
学校のきまりを守っていますか



28
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



6
自分には、よいところがあると思いますか



成果と課題

・物事を成し遂げた充実感や達成感を味わう経験が大変多く、高い結果が出ている。そして、きまりを守ろうとする規範意識は、昨年より本校の運営の計画でも重点において取り組んでおり、市・全国共に大きく上回った。また、全校あげて「ほめる、認める、励ます」ことを大切に取り組んでおり、市・全国より16~18パーセントも高い結果となった。その結果、「自分には、よいところがありますか。」という自尊感情についても、大きく市・全国を上回る結果となったと考える。

今後の取組

・自尊感情や規範意識は、しっかり身につけてきているという結果がでている。今後も一人一人を認める機会を多く持ち、自尊感情を大切に育てると共に達成感・成就感のある取り組みをさせていくことが大切と考える。また、規範意識についてもルールのみでなくマナーの大切さやよいことを進んで行う態度も育てていきたい。

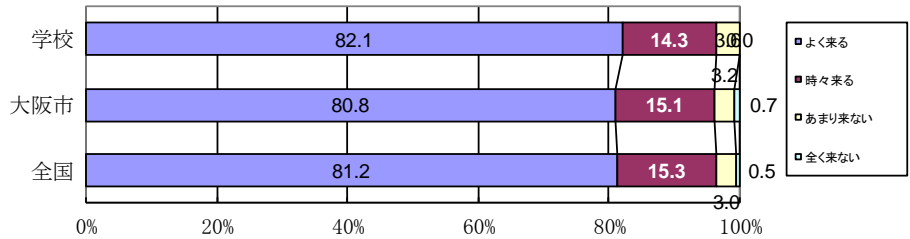
学校・家庭・地域の連携

結果の概要

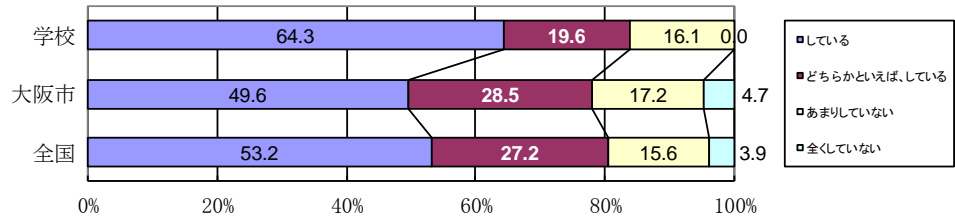
・「家の人(兄弟姉妹除く)は授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか。」では、「よく来る・時々来る」の回答を含めると、96%に達している。
 ・「家の人(兄弟姉妹除く)と学校での出来事について話をしますか。」では、「している」が、大阪市、全国よりも11～15%程度高く、家の人とのコミュニケーションをよくとっていることがわかる。
 ・「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。」では、「当てはまる」が、大阪市・全国より5～10%上回っていて、関心が高い児童が多い。しかし、大阪市・全国より少ないが、地域・社会の出来事にあまり関心を持っていない児童も38%ほどおり、関心を持たせる工夫も必要である。

質問 番号	質問事項
----------	------

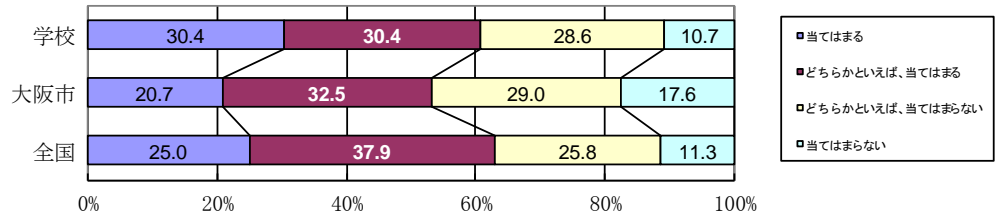
20
家の人(兄弟姉妹除く)は授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか



19
家の人(兄弟姉妹除く)と学校での出来事について話をしますか



30
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか



成果と課題

・家庭では、学校の行事に関心が高いことが、質問事項「19・20」の回答から伺える。学校と家庭とがしっかり連携が取れていることがわかる。しかし、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。」の質問では、60%しかなく、地域への関心や地域との連携に関しては、学校への関心と比べると30%も低いことがわかる。地域や社会で何が起きているか、変わろうとしているかなど地域社会への関心を高めていくことが課題である。

今後の取組

・今後とも学校と家庭とが連携を深め、より良い関係を築いていくように努めていく。
 ・PTAや地域と連携を深めながら、地域・社会への共通の話題や関心事を共有し、共通理解をしていく必要がある。
 ・昨年度より5・6年生を対象に子ども新聞を購読し、調べ学習に生かす取り組みを進めており、今後その成果が出てくるものと思われる。